

「いのちのことばをしっかり握って」 ピリピ2：12—16

「そういうわけですから」：12。つながり、文脈が大切。ピリピ教会が一致する為には、へりくだる必要が述べられ、その為にキリストの驚くべきへりくだりが示された。神であるキリストが人間となられ、自分を卑しくし、実に私達の罪の為に十字架の死にまでも御父に従われた。この従順こそ、これから述べられる「救いの達成」に関係がある。

I 「愛する人たち（愛情を込めて勧める）。いつも従順（神に）であったように、私がいるときだけでなく、私のいない今はなおさら（この時パウロはローマの獄中にいた。パウロの喜び→：17, 18）、恐れ（畏敬）おののいて（人の恐怖心ではなく、救いを与えられる神を神として崇め神を恐れ敬う心。へりくだる。罪を軽く見ず、罪を隠さず、ごまかさず神に告白し悔い改める）自分の救いの達成に努めなさい（成し遂げる、遂行）」：12。この御言葉を文脈や聖書全体から切り離して私的解釈をしてはならない。これは決して自力救済を命じているのではない。それは不可能！この勧めは、教会の中にある不一致という問題の解決につながって述べられている。しかもこの勧めに続く：13で明確に「神はみこころのままに、あなたがたのうちに働いて志を立てさせ、事を行わせてくださるのです」と言われている。救いには、三つの段階がある。①神が救いを私達に与え始められる瞬間を意味する第一の面。霊的に死んでいた私達が新しく生まれる新生、聖霊の内住。聖霊が与えられる信仰による義認。これは神の大きな恵み。②神の救いの働きを継続という第二の段階＝主の姿に聖められ変えられ続ける聖化においては、私達キリスト者自身が、神の聖化のみわざ（救いの達成）に参加できる、私達の分がある→自分の罪、憎しみ、不品行、偶像を隠さず、告白し、主イエスの血の恵みで赦され、聖められ、内住の御聖霊に拠り頼み、信頼できる人に祈ってもらい、罪から離れ、素晴らしい神に近づき続ける。いのちの御言葉で養われ御言葉に従う。そういう意味で自分の救い（主の姿への聖化）の達成に努める。そして、その努める行為でさえ、実は→：13。私たちのうちに働いて、その志（教会に行く。主を信じ、洗礼を受け、神が喜ばれる事を見分け選び取り、主の姿に聖められ続けたい）を立てさせ、事（主を信じ聖化の達成に努める行為）を行わせて下さるのは神。私達は、神（いのちの御言葉）に従い神と共に働く。③そして主の再臨の時、救いの完成という救いの第三の段階＝栄化、救いの完成、主の栄光の同じ姿に変えられる（3：21）恵みが成就する。

II :12の「自分の救い」は原語は、「自分達の救い」。個人個人が主の姿に聖化される面だけでなく、自分達＝教会が主にあって一致して一つとなり教会全体でも主の姿に聖化される救いを達成する事に努める。神の御心は、主の教会がキリストのからだとして調和し、一致を保つ事（エペソ4：3）。神は私達一人一人に働かれると同時に、教会全体にも働かれる。自己中心や虚栄心、高ぶりを捨て、主にある一致を保つ志を立てさせ、一致を保つ事を行わせて下さる。「すべてのことを、つぶやかず、疑わずに行いなさい」：14。つぶやかず＝原語：不平でぶつぶつ言わず。自己中心や空しい誇りから不平を言ったり、つぶやかず、主の姿に似せられ、聖化される救いの達成に努める。主にある一致を保つ。つぶやかすへの勝利の秘訣→まず主の恵みを数え感謝する。「むしろ感謝しなさい」（エペソ5：4）。疑わずに＝原語：論争せず、争わず。自己中心、頑固なこだわりで争う事をせず、主の姿に聖化され

る救いの達成に努める。争いへの勝利の秘訣→まず神様に祈る、心を静める。「怒ったり、言い争ったりすることなく、どこでもきよい手を上げて祈るようにしなさい」(Iテモ2:8)。

Ⅲ 救いの達成に努める目的。自分達だけが救われれば良いのではなく、世の光として輝き、世に神を証しする為。「それは、あなたがたが、非難されるところのない(主の御言葉に養われ主の姿に変えられ続け)、純真な(悪に染まってない)者となり(内住の御聖霊と御言葉により聖められ続ける事により)、また、曲がった邪悪な世代(時代)の中であって傷のない(主の十字架の血と御聖霊により罪を聖められ続け)神の子ども(神に愛されている)となり、いのちのこことばをしっかりと握って、彼ら(救われて欲しいと神が願っておられる人々)の間に世の光として輝くためです」:15, 16。主は、私達を世から救い出され、私達を愛し身近に置き(マルコ3:14)満たされ、再び私達を世に御自身を証しする世の光として遣わされる(ヨハネ17:18)。「彼らの間に世の光として輝くためです」:16→不品行と曲がった邪悪な罪の世の誘惑は強い。私達を聖さを失い、かえって世の悪の影響を受け易い。だからこそ、「いのちのこことばをしっかりと握って(原語:しっかりと捕まえる、堅く保持する、心を向ける、注目する)」とある!これこそ最高の秘訣。聖書の御言葉は、ただの規律や道徳書ではない。旧新約聖書のみことばは、素晴らしく、生きていて、いのちがある。世に出かける、世に遣わされる前に、毎朝、一日のどこかで、毎週の礼拝メッセージでいただく、聖書のいのちのみことばにより、私達の心に神のいのちの息が吹きかけられる→「主は土地のちりて人を形造り、その鼻にいのちの息を吹き込まれた。そこで人は生きものとなった」創2:7。今も私達は、御言葉を読むたびに、神の霊的ないのちの息を吹き込まれ強められる。「聖書はすべて、神の靈感によるもの(直訳:神のいぶきによるもの)で、教えと戒めと矯正と義の訓練(主の姿への聖化という救いの達成)とのために有益です」IIテモ3:16。聖書は、神のいぶきがかかっているのです、生きていて力と命がある。このいのちのみことばを日々、御聖霊に頼り読み、しっかりと握り生きる時、私達の心の中にいのちの御言葉の光が満ち、それが外に現れ、世にあって、神を証しする世の光(主の光を反射する)として輝かせていただける。